

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (中国)	良く なっている	競艇場（職員）	販売量の動き	・11月初めのG1レースで協力他場売上や電話投票売上が確保できた。
	やや良く なっている	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・先月よりも複数の買物袋を持って買物している客が増えた。客数は前年より少ないが、単価は上昇している。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・化粧品など消費税増税前に駆け込み需要があった商品はようやく反動減を脱した感があり、婦人洋品が好調に推移し始めた。一方で気温が下がらないため、衣料品の動きが悪すぎる。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・11月は夏に比べて売上や来客数が落ちるのが通例である。しかし今月の売上や来客数は夏から1~2%落ちただけで、夏とほとんど変わらない。この状況から判断すると、景気はやや良くなっている。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・11月の販売量は3か月前に比べて、季節商品の動きが若干であるが良くなりつつある。しかし前年に比べると、非常に悪い。
		その他小売 [ショッピングセンター]（所長）	お客様の様子	・客は興味があるものには消費意欲を持っており、衣料品の動向が良くなっている。それが飲食部門や食品部門にも波及している。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・当地で3か月前の8月に土砂災害が発生した以降、来客数の減少が続いてきた。11月の来客数は前年には届かないが、ようやく回復の兆しが見えてきた。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・年末が近づきボーナスも支給される時期となり、来客数は3か月前に比べると増加している。
		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・足元では国際会議の開催やコンベンション関連に伴う宴会や宿泊需要が好調である。また間近となった大型ショッピングモールの開業準備に伴う宿泊需要が集中したため、市内の宿泊施設は潤っている。11月は環境要因による特需で景気が良い。
		タクシー運転手	お客様の様子	・もうすぐ駅前に大型ショッピングモールが開店するため、人の動きは多い。
		通信会社（総務担当）	お客様の様子	・年末に向けて新築住宅の竣工が多く、ケーブルテレビの加入も比例して増加している。
		テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・冬のイルミネーションイベントが始まり、来園者数も増えてきている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・若干ではあるが受注件数は増加しつつあり、受注金額も微増である。
		変わらない	商店街（理事）	お客様の様子
	商店街（代表者）		販売量の動き	・10~11月は観光客が増えるシーズンで、来店客は9月に比べると増加している。ただ見回るだけの客が目立ち、売上にはつながらない。
	一般小売店[食品]（経営者）		販売量の動き	・販売点数の減少が続いている。
	一般小売店[靴]（経営者）		販売量の動き	・販売量に変化はないが、日曜日や祝日の商店街への来客数が大きく減少している。
	一般小売店[印章]（経営者）		販売量の動き	・年賀状を自分で印刷する家庭が増え、受付件数は毎年減少している。それに加えて企業も経費削減のため印刷枚数を減らし続けている。
	百貨店（販売促進担当）		お客様の様子	・消費税増税後、初めてのお歳暮商戦がスタートしたが、お中元と同様に件数の絞込みが目立つ。おせちの受注も単価が低下して高額品の受注が低迷するなど、客の価格意識はシビアである。冬物衣料は気温の影響もあるが、コート等的高額品の動きが低迷している。
	百貨店（売場担当）		販売量の動き	・11月は売上がやや回復しているように見えるが、暦の関係で休日が増えたためである。防寒アイテムの動きが悪く、前年に消費税増税前の駆け込み需要があった高級ブランドも今年は動かない。
スーパー（店長）	単価の動き		・天候不順が続き、景気が良くなる材料は見当たらない。	
スーパー（店長）	来客数の動き		・客は特売日等に集中して買物しており、通常日は来客数が減少している。	
スーパー（店長）	単価の動き		・ここ最近では単価に大きな変動がない。	

スーパー（総務担当）	来客数の動き	・全体的に来客数は横ばい状態である。
スーパー（業務開発担当）	販売量の動き	・食料品に対する客の節約志向が変わらない。値上げになった商品は売れず、野菜は単価下落で売上は厳しい。
スーパー（販売担当）	販売量の動き	・ここ数か月の動向をみる限り、売上は例年どおりに推移しており、短期的には景気の変化を感じない。ただ前年と比較するとほとんどの数字がマイナスであり、厳しい状況は続いている。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・客が不必要な買物を避ける姿勢は続いており、買上点数の減少が継続している。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は下げ止まりつつあるが、増加には転じていない。
コンビニ（副地域ブロック長）	お客様の様子	・買物カゴを持つ客の割合が低下している。クーポンや値引きに対しても、客の反応が弱い。
コンビニ（支店長）	来客数の動き	・客数の前年比減が続いている。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・中小企業にとっては全く景気が良くなっていない。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・厳しい状況が続くなかで手を尽くしているが、販売量の増加に至らない。
家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・来客数と売上はともに前年の9割程度であり、状況は3か月前と変わっていない。
乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・11月の来客数は前年の102%で、月初めから安定した数字で推移した。特に衆議院の解散が発表された以降、来客数が増加した感がある。
住関連専門店（営業担当）	来客数の動き	・土曜日の来客数が平日と変わらないほど減少している。
その他専門店〔和菓子〕（経営者）	来客数の動き	・秋の行楽客数は前年と対比して大きな変化はない。
その他専門店〔ファッション雑貨〕（従業員）	お客様の様子	・依然として客の低価格志向が強い。客は特売日や高ポイント付与日にのみ反応する。
一般レストラン（外食事業担当）	お客様の様子	・休日前の金曜日の売上減少が続いており、前年の80%後半となっている。客層も家族連れ客が減少し、若いグループやカップルが増えている。休日の売上も前年の100%ぎりぎりの状態であるため、全体売上はやや下降気味である。
観光型ホテル（宿泊予約担当）	来客数の動き	・繁忙期を迎えたが、団体客が減少している。個人客は前年から増加しているが、全体では減少傾向が続いており、景気は良くない。
観光型ホテル（支配人）	販売量の動き	・11月に入って宴会部門の売上は回復傾向にあるが、宿泊部門は引き続き苦戦している。
都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・3か月前と同様に、前年に比較すると宿泊部門では海外客が好調で、1室当たり料金は若干前年を上回っている。レストラン部門では特に高単価の和食店が低迷する状態が続いている。
旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・1ドル100～110円までは海外旅行客は多少減少する程度であったが、今は118円くらいになり、客の変化がひしひしと感じられる。
タクシー運転手	来客数の動き	・11月は客数が伸びない月である。気温もそれほど下がらず、月に連休が2回あったので期待したが、客数はやはり少なかった。
タクシー運転手	来客数の動き	・街中にてかける人が非常に少ない。
通信会社（広報担当）	販売量の動き	・販売数が増えるような動きは全くない。
通信会社（販売企画担当）	販売量の動き	・商品の販売量や来客数に変化はない。
通信会社（工事担当）	販売量の動き	・申込件数は増加しているが、同じように解約数も増加しているため、全体の契約件数は変わらない。
テーマパーク（営業担当）	単価の動き	・大型イベントを開催したため来園者は増えたが、客単価が上がってこない。日帰りドライブ客が増えており、宿泊客やツアー客は相変わらず少ない。
テーマパーク（管理担当）	来客数の動き	・来館者数や販売高はともに前年同月から変動がない。
ゴルフ場（営業担当）	来客数の動き	・例年どおり、11月は集客が一番多い月であり変動はなかったが、総選挙の声が聞こえたと同時に集客が伸びなくなった。

	その他サービス 〔介護サービス〕（介護サービス担当）	お客様の様子	・利用者やその家族との会話で景気の変化がうかがえる話は一切聞かれない。
	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・消費税増税後、客からの相談件数は減ったままの状態が続いている。
	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・価格の低下に歯止めがかからない。A3版両面カラー刷りチラシ3,000枚の見積価格は、地元印刷所が20万円に対して、ネットによる業者価格は1万7千円である。地方経済の崩壊がまた1歩進んでしまう感がある。
	住宅販売会社（販売担当）	お客様の様子	・イベントへの来場などでは客の動きはみられるが、住宅取得の熱意は以前よりも薄れている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街への来街者数が減少している。必要なもの以外は買わない傾向が強くなっており、客の財布のひもは固い。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・消費税再引上げの予定は明らかに消費意欲をそいでいる。消費者はコンビニなどで食費を安く抑えようとしている。
	商店街（代表者）	単価の動き	・客の購買意欲は先行き不安から減退している。まだまだデフレ傾向が収まる様子はみえない。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・冬のライトアップイベントが始まり、週末は商店街への来客が多い。人出の多さからは景気は良いと思われるが、客の財布のひもは固く、各加盟店の売上は低迷したままである。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・客が買い控えているためか、来店頻度が低下している。
	一般小売店〔紙類〕（経営者）	販売量の動き	・物価が上昇気味で景気の先行きも不透明なためか、常連客にも買い控えが起きて、販売量が減少している。
	一般小売店〔酒店〕（経営者）	販売量の動き	・消費者が外食や酒にあまり金をかけなくなっているためか、料飲店向けの売上が減っている。
	一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・総選挙が12月14日に実施されるが、歳末商戦たけなわの時期である。選挙違反として疑われることを恐れて、お歳暮の動きが悪くなり、忘年会も減る。
	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・売上は前年実績から5～6%減少する見込みである。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・11月は売上が前年実績の100%を超える店は、全店舗のうち30%弱であった。先月は60%強の店が前年を超えたことから景気は持ち直しているように思ったが、今月は非常に悪い。原因がわからず、対処のしようがない。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・8～9月には夏のバーゲン商品よりも秋物の正価品の動きが良く、売上も順調であったが、徐々に厳しくなってきた。今月は前年実績をなんとかクリアする状況で、今ひとつ売上に勢いが無い。
	百貨店（営業担当）	競争相手の様子	・12月初めにオープンする大型ショッピングモールの影響が始め、客の買い控えが顕著にあらわれている。
	百貨店（購買担当）	お客様の様子	・衣料品の売上は気温に大きく左右される。今年は12月が近づいても気温が高いため、防寒着の動きが悪く、売上は前年を大幅に下回っている。また11月中旬に総選挙が報道され始めた頃から、食品や衣料品の売上が悪くなってきた。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・催事をしても高額な美術品や宝飾品は売れず、全体の売上もかなり厳しい。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・しばらくの間、来客数が前年の99～100%で、客単価は前年の102～103%で推移していたが、11月は来客数が前年の98%、客単価は前年並みと少し数字が悪くなった。
スーパー（店長）	販売量の動き	・客単価が3か月前と比べて落ちている。	
スーパー（財務担当）	来客数の動き	・仕入価格の値上げに伴う販売価格の上昇により、売上は前年を上回っているものの、客の節約志向のため買上点数はやや落ちている。	
スーパー（管理担当）	単価の動き	・来客数が前年を下回っているうえに、客単価が思うように伸びない。	
家電量販店（販売担当）	来客数の動き	・気候が寒くならないため、暖房器具が動かない。	

		その他専門店 〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・現在はボーナス前であるため、客は欲しいものがあっても購入を控えている印象がある。12月にボーナスが出た後は多少なりとも買物に積極的になって欲しい。
		その他専門店 〔海産物〕（経営者）	来客数の動き	・松葉ガニ漁が始まってから客単価は例年よりも良くなっているが、来客数は少ないままである。
		その他小売 〔ショッピングセンター〕（運営担当）	お客様の様子	・施設全体では前年並みの売上を確保できているが、売上を上げるため諸方策をとった結果である。諸方策を実施しなければ売上は前年を下回る可能性が高い。
		一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・地方の中小企業では賃金増額は行われていない。一時的な加給はあっても賃金のベースアップがないため、消費者には手控え感が高い。また外食等の機会や費用も減少しており、当店にとっては厳しい年末年始が予測される。
		一般レストラン （店長）	単価の動き	・前年に比べて客単価が下がっている。メニュー変更などで店が販売単価を下げた結果であれば納得できるが、そうしたことは行っていない。客の注文の仕方が変わったと考えるしかない。
		その他飲食 〔サービスエリア内レストラン〕（店長）	来客数の動き	・高速道路の交通量が減少し、観光客数も減少している。
		都市型ホテル （スタッフ）	お客様の様子	・忘年会シーズンに入るが、前年と比べて平日の予約が伸びていない。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・年末年始は個人旅行が比較的堅調であるが、1月以降はあまり動きが良くない。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・年末に向けての動きが例年より鈍い。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・例年からして11月は来客数が減少する月であるが、今年は特に客が少なく、客単価も下がっている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・消費税増税後は賃金増額が増税分に追いつかないため、客は出費を抑えている。とても店の売上が増加する状況ではない。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・10月以降は来場数が落ちている。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・消費税再引上げの時期が延期される可能性が出てきたため、客の引き合いに足止め感がみえるようになった。
		住宅販売会社 （営業担当）	来客数の動き	・消費税再引上げが狙上に上がっているため、住宅購入を検討する者は少ない。ただごく少数であるが、消費税再引上げの行方に無関心で住宅購入の姿勢をみせる客もある。
	悪くなっている	スーパー（店長）	来客数の動き	・肉類や惣菜は良く動いているが、野菜、デイリー商品や雑貨は買上点数が伸びない。
		乗用車販売店 （統括）	販売量の動き	・消費税増税の影響が続いている。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・例年は11月ごろから冬商戦が始まり、売上が伸びるはずであるが、今年は全く盛り上がりがない。
		その他専門店 〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・当店にとって売れ筋である高額商品が売れない。低価格チェーン店に客を奪われているようである。
企業 動向 関連  (中国)	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車向け高機能樹脂の生産量が増加基調にあり、これに比例して原料の受注量が増加している。
		電気機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・円安により、海外生産していた取引先から受託生産の話が入るようになった。
		輸送業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・9月末から荷動きが活発になっている。天候の影響等による予定変更で月により増減が発生するため、今月はやや低調であるが、景気は良くなりつつある。
	変わらない	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・1年のうちで10～12月は繁忙期であることに加えて、10月からの予想外の受注増加が11月も継続している。
		木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前も悪かったが、現在もその状態が続いている。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・鉄鋼向けの需要は堅調のままで、受注量に変化はない。ただ短納期品が多いため、時間外労働が非常に多くなっている。

	鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・良い分野と悪い分野が出ており、受注量に波が見受けられる。景気云々ではなく、企業の実力差が反映されていると思う。
	鉄鋼業（総務担当）	取引先の様子	・客先の活動水準には変化がない。ただし原料価格の下落等の報道から製品市況が下がるのではないかとという先安感があり、若干ではあるが買い控えによる在庫調整もみられる。
	非鉄金属製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・総体的には大きな変化はみられない。
	金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は生産能力の70%程度で推移しており、過去3か月この状況は変わっていない。
	輸送用機械器具製造業（財務担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格に変化はない。
	輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・内示に比べて、若干ではあるが受注量が少なくなっている。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・建築関係では耐震補強等の改造工事が出ており、仕事量はある程度確保できているが、まだ景気が上向いたとは言えない。不動産関係にも動きがみられない。
	建設業（総務担当）	それ以外	・ここにきて景気の先行きが不透明となった。
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・状況に大きな変化はない。手持ち工事では出来高がピークを迎えており、技術職が目一杯に稼働する状況が続いている。
	通信業（営業企画担当）	取引先の様子	・年度内の新規案件は受注が続いているが、既存客の計画見直しに伴って設備投資計画が来期に延期されたものもあり、受注量の伸びは鈍化している。また製造系を中心に大型の引き合い案件も発生していない。
	金融業（貸付担当）	取引先の様子	・取引先企業では、3か月前には売上が消費税増税後の反動減から回復する兆しがみられる企業が出ていたが、今月は売上が前年同月と同水準に達する企業が多くなった。また個人の資金需要については、住宅ローンやマイカーローンの申込は低調であり、住宅新築や新車購入も低調であると推察される。以上からすると、身のまわりの景気は3か月前と比べてあまり変わっていない。
	金融業（自動車担当）	取引先の様子	・取引先の自動車部品メーカーの受注は、前年を上回る水準で推移している。受注単価も例年であれば値下げ要請があるが、今年は単価が据置きとなっている。操業も残業が恒常化し、高操業が続いている。
	不動産業（総務担当）	それ以外	・来店数と成約件数はともに横ばいである。
	会計事務所（職員）	取引先の様子	・設備製造業の中には、メーカーの生産設備の海外移築に伴って受注が伸びているところもあるが、全体としては大きな変動はみられない。
やや悪くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	・10月を3か月前と比較すると、水揚げ量は630tの増加、水揚げ金額は1億9,000万円の増加であった。増加理由は沖合底引き網漁の増加である。10月単月の前年比は、水揚げ量が360tの増加で前年の138%、水揚げ金額が3,200万円の減少で前年の94%であった。水揚げ量の増加理由は大中小型巻き網漁の増加で、水揚げ金額の減少理由はイカ釣り漁等の減少である。
	化学工業（総務担当）	それ以外	・第2四半期の決算は予算に対して上ブレした。これは合理化や経費削減の効果があつたためであり、今後には明るい見通しがあると思えない。
	電気機械器具製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・仕入原料の値上げや円安による材料価格の上昇分を製品価格に転嫁できておらず、収益を圧迫している。賃上げどころか十分なボーナスも支給できず、かろうじて黒字を維持している。過去の米国の大手金融機関の破たん時の経験を生かし、設備投資よりも内部留保に注力したい。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・取引先企業数が減少気味であり、1社当たりの取扱荷物量も減っている。また個人からの荷物量も減少傾向である。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・今年度下期から通信機器を含む商品の販売状況に陰りがみえている。また機材更改などの投資も抑制されている感がある。
	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・客からの受注量が減少し、年末商戦も動きが鈍い状況で進行している。
悪くなっている	食料品製造業（総務担当）	競争相手の様子	・同業者の倒産や廃業が多くなっている。

		その他製造業 [スポーツ用品] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・海外仕入材料や部品の価格は急激な円安により20%以上上昇し、総原価は国内の値上がり分も含めると25%上昇しているため、製品価格の値上げは必須である。現在でも受注量は10%減少しているが、それほど価格を上げれば当然に受注は大幅に減少すると予想されるため、苦慮している。
雇用 関連	良く なっている	-	-	-
(中国)	やや良く なっている	人材派遣会社 (支店長)	求人数の動き	・求人数は少し増加している。また取引先の企業からは派遣の延長要請をいただいているが、一時的な需要の可能性も考えられる。
		人材派遣会社 (支社長)	求人数の動き	・年末に向けて期間限定の求人が増加している。この傾向は例年どおりであるが、サービス業からの受注が例年以上に大幅に増加している。
		求人情報誌製作 会社(採用支援 担当)	求人数の動き	・今まで取引がなかった新規企業から新卒採用の商談依頼が増えている。
		新聞社[求人広 告](担当者)	雇用形態の様子	・アルバイトやパートの昼間時給は、半年前の700円台から今は800円台になり、一般の販売員では900円台も出始めている。800円が限度である喫茶店の主人は、若い人は好条件のところに移るし40代なら確保できるが店の雰囲気と合わないと言っている。
変わらない		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・季節要因を除外すると、求人数は増えていない。
		求人情報誌製作 会社(営業担 当)	求人数の動き	・来期の新卒採用スケジュールの変更に伴って、多くの企業から活動計画について相談を受けている。新たなチャレンジに取り組む企業も増えている。
		求人情報誌製作 会社(広告担 当)	採用者数の動き	・企業の採用意欲に関しては特に良い雰囲気も感じないし、悪い印象も受けない。新卒採用に関しては、各社とも2016年度の採用活動にシフトしており、来年3月卒業生の採用活動は一通り終了した印象を受ける。
		職業安定所(産 業雇用情報担 当)	求人数の動き	・有効求人倍率は16か月連続して1倍を超えている。パートの新規求人数は3か月前に比べて2.6%の微増となっているが、フルタイムの新規求人数が10.4%減少しており、景気が良いとはいえない。
		職業安定所(雇 用開発担当)	求人数の動き	・新規求人は前年と比較して増加を続けているが、高止まりの感がある。
		職業安定所(産 業雇用情報担 当)	求人数の動き	・新規求人の内訳をみると、建設業、製造業や医療・福祉関係が増加する一方で、卸売・小売業、宿泊・飲食業やサービス業は減少するなど、業種間でバラつきがみられる。全体の新規求人数は今年6月以降5か月連続で前年を下回っており、特にパート求人の減少幅が大きくなっている。
		民間職業紹介機 関(職員)	周辺企業の様子	・求人数や雇用者数は増加傾向にあるが、地域全体としては景気の浮揚感を感じられない。
やや悪く なっている		人材派遣会社 (経営企画担 当)	求職者数の動き	・製造業では求人数が減少しているが、サービス業の求人数は増加傾向にある。また当社にとっては求職者確保に依然として苦戦しており、数回にわたり相談会を実施し、求人誌への出稿も増加させている。
		新聞社[求人広 告](担当者)	求人数の動き	・過去3か月、有効求人倍率は下がり続けている。消費税増税後に景気は回復しておらず、駆け込み需要で求人が伸びた反動が出ている。
		その他雇用の動 向を把握できる 者[労働機関] (職員)	求人数の動き	・新規求人は駆け込み需要の反動減が長引いているため、基幹産業である製造業への派遣求人が減少するなど、求人全体では前年比で1割減となった。このところ好調だった多くの業種で勢いが弱まっている。
悪く なっている	-	-	-	